

第4回三田市行政改革推進会議の意見反映について

1 方針Ⅰ 市役所のスマート化について

(1) 主な推進項目②の3つ目の「特定の層や対個人への情報発信」という表現が誤解を招く恐れがある。説明いただいたような「ニーズに応じた情報発信」というような内容になるように表現を工夫してほしい。

<対応>

本項目の趣旨は、「必要な情報を必要とする人に」に対して、市ホームページの個別最適化や市公式LINEのプッシュ通知等により発信することであるが、その趣旨をより分かりやすく伝えられるよう、「利用者のニーズに応じた情報発信」に修正する。

(2) 冒頭の説明で「デジタルデバイドの解消」という表現があるが、そもそもこの書き方が難しい。デジタルに弱い方でも理解できるように「情報格差をなくす」など、表現を変えて意図が伝わるように工夫してほしい。

<対応>

デジタルデバイスが「情報格差」を示していることがわかるよう、「デジタルデバイス（情報格差）」というように追記したうえで、以下のように注釈を加える。

※デジタルデバイス（情報格差）⇒インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差をいう。

(3) 冒頭の説明で「市役所窓口のワンストップサービス」という表現があるが、後々のアクションプランの選択肢の幅を広げておくためにも「行政窓口のワンストップサービス」としておくことも検討してほしい。

<対応>

「行政」という表現は国や県も含むことから、本方針では、市の窓口業務全般を指すという意味を明瞭にするため、「市役所窓口」を「窓口」と表現を見直すこととする。

2 方針Ⅲ 公民連携の推進について

(1) 民間事業者の不祥事に対するリスク管理や公共性の担保のために、行政として取り組んでいることについて、フロー図に具体的に記載すると理解や後々の検証がしやすくなると思うので、検討いただきたい。

<対応>

ご指摘の民間事業者の不祥事に対するリスク管理、公共性の担保については、公民連携デスクに法律の専門家をアドバイザーに加えるなど対応を行っています。

なお、フロー図につきましては、具体的な取り組み内容を加筆しますと、図が複雑になり、かえって理解しづらくなる恐れがあるため、公民連携デスクの補足説明をする文章に変更させて頂きました。

(2) 冒頭説明文書の2行目「困難な状況」というネガティブ表現を避けてほしい。(言い換えの例：行政のみで解決するのではなく、～)

また、公民連携によるリスクと責任の所在は市にあるという気概を示す必要がある。

<対応>

冒頭説明文書の2行目を、「行政だけでなく多様な主体の力を集めて効率的に取り組むことが必要となっています。」に修正します。

また、公民連携によるリスクと責任の所在については、冒頭説明文書の四行目に「市が公益性を確保しながら」という表現を加筆させていただきました。

(3) 新しいことをやるだけではなく、今までできていなかったことを民間の力を借りて実現していくことも検討してほしい。

<対応>

公民連携は、急激な社会経済情勢の変化等により、新たに生まれるニーズのみならず、広くこれまでの地域課題に対しても、適所に民間の力・ノウハウを導入し、解決にあたることも含んでおります。ご理解いただきますようお願いいたします。

(4) 同じ意味で使用している語句については統一してほしい。

<対応>

「住民ニーズ」を「市民ニーズ」に表現を統一します。

(5) お金に関する要素も少しは取り入れて、公民連携は民間企業にとっても経営上のメリットがあり、市が求める役割との両立が可能であることを示したほうが良いのではないか。

<対応>

ご指摘のとおり、公民連携は、社会課題解決型のビジネスや CSR 活動などにより公益上有益な活動を行うものであり、民間事業者等の事業活動と両立が可能なものです。

また、そうでなければ持続可能な連携はできないため、<公民連携推進の目的>の「④民間事業者等の活力増進」では、民間事業者等が CSV により、自らの価値向上についても公民連携で達成することを目的としています。

【CSR とは…】

Corporate Social Responsibility — 企業の社会的責任。企業が自社の利益を追求するだけでなく、自らの組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆるステークホルダー（利害関係者：消費者、取引関係先、投資家等、及び社会全体）からの要求に対して適切な対応をとる義務があることを指します。

【CSV とは…】

Creating Shared Value — 企業が社会のニーズや社会課題を解決する事業に取り組むことで社会的価値を創造し、その結果、経済的価値（企業の利益）が創造されることを指します。

3 方針Ⅳ 未来への投資のための財源確保について

(1) 主な推進項目⑤の2つ目に書かれている内容の意味が分かりにくいので、補足説明を検討してほしい。

<対応>

表現を次のように修正します。(※二点とも表現見直し)

- ・データなど客観的な根拠（エビデンス）に基づいて政策等を立案、検証し、限られる経営資源をより効果的に配分します。
- ・財政規律に基づいて、投資経費を含めた歳出全体を最適化し、健全で持続可能な財政運営を実現します。

4 方針Ⅴ 持続的に成長する人づくり・組織づくりについて

(1) 冒頭説明文書の1行目「人財づくり」の「財」は統一性の観点から取ってしまっても良いのではないか。

<対応>

統一性の観点から「財」を削除し、「人づくり」とする。

(2) 主な推進項目③について、女性・高齢者・障害者を一括りにするべきである。また、「民間人材」がどのような人を指すのかわかりにくい。

<対応>

前段は、職員の年齢構成の特徴として、女性及び高齢者の割合が今後高くなることへの対応が趣旨であるため、障害者を一括りにすることはない。

また、後段の「民間人材」は、民間企業等に籍を置きながら副業で市役所の業務にも従事するといった多様な働き方を推進するという趣旨であり、「兼業による民間人材」と追記する。

(3) 女性職員、高年齢職員の就業環境の充実について、他市よりも先駆的な取り組みをしているのであれば、割合が高くなるから対応するという受け身の表現ではなく、積極的に推進しているという要素を全面的に押し出すべき。

障害者の積極採用についても同様。

<対応>

先にも述べた通り、三田市の職員構成の特徴であり、今後、推進していく必要があるという趣旨が分かるように修正する。障害者の積極採用については、身体だけではなく、知的、精神障害についても積極的に採用していることがわかるよう「身体障害者に限らず、知的・精神障害者や」と追記する。

(4) 主な推進項目⑤の見出しが「生産性の向上」となっているのに、説明は「組織力の向上」となっており、一致していないので整合を取ってほしい。

<対応>

主な推進項目⑤については、【方針Ⅰ 市役所のスマート化】の推進項目と内容が重複していることから、方針Ⅰに集約することとし、削除することとしました。